

食 品

1. 評価対象企業（21社）

ニッスイ、日清製粉グループ本社、江崎グリコ、山崎製パン、カルビー、森永乳業、ヤクルト本社、明治ホールディングス、日本ハム、アサヒグループホールディングス、キリンホールディングス、コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス、サントリー食品インターナショナル、不二製油グループ本社、キッコーマン、味の素、キューピー、ニチレイ、東洋水産、日清食品ホールディングス、日本たばこ産業

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	34
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	18
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	8
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	32
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	8
計		12	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは 20 名（所属先 19 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、主に ESG 関連の項目内容および配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 65.8 点（昨年度 64.7 点）となった。総合評価点の標準偏差は 11.6 点（昨年度 14.8 点）であった。
- ② 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 63%（昨年度 59%）、説明会等が 70%（昨年度 69%）、フェア・ディスクロージャーが 79%（昨年度 84%）、ESG 関連が 65%（昨年度 66%）、自主的情報開示が 55%（昨年度同率）となった。
- ③ 評価項目について見ると、全 12 項目のうち、次の項目（フェア・ディスクロージャーの中の 1 項目）の平均得点率が 80%以上となり、高水準であった。

(ア) 「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていますか。また、日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率 80% [昨年度 86%]）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：60%台 2 社・70%台 8 社・80%台 7 社・90%台 4 社）

④ 一方、次の3項目（**経営陣のIR姿勢等**の中の1項目(a)、**自主的情報開示**の2項目(b)(c)）は、平均得点率が50%台以下となり、低水準となった。いずれの項目においても、企業間の得点率の差が大きい状況が引き続き見られており、下位評価企業の改善努力を求めたい。

(a) 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 28%〔昨年度 24%〕）（得点率：10%台以下 10社・20%台 2社・30%台 4社・40%台 1社・50%台 2社・60%台 1社・80%台 1社）

(b) 「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していますか。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」（平均得点率 59%〔昨年度 64%〕）（得点率：30%台 2社・40%台 1社・50%台 8社・60%台 5社・70%台 3社・80%台 2社）

(c) 「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していますか」（平均得点率 52%〔昨年度 47%〕）（得点率：10%台 5社・20%台 1社・40%台 1社・50%台 4社・60%台 2社・70%台 5社・80%台 3社）

⑤ **ESG関連**の3項目は次のとおりであり、いずれも60%台となった。なお、各項目の内容については本年度に大きく見直しているため、昨年度比を示していない。

(a) 「非財務情報（ESG情報やScope3を含めた気候変動問題等）に関して、中長期的な改善目標など定性・定量両面での開示、及び統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るよう努めていますか」（平均得点率 66%）（得点率：30%台 1社・40%台 2社・50%台 3社・60%台 6社・70%台 6社・80%台 3社）

(b) 「人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、その進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していますか」（平均得点率 66%）（得点率：40%台 3社・50%台 4社・60%台 6社・70%台 5社・80%台 1社・90%台 2社）

(c) 「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていますか」（平均得点率 64%）（得点率：40%台 3社・50%台 5社・60%台 4社・70%台 8社・80%台 1社）

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 味の素（ディスクロージャー優良企業〔3回目〕、

総合評価点 85.0点〔昨年度比-5.1点〕、昨年度第2位）

① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**（得点率（以下省略）87%）、**フェア・ディスクロージャー**（93%）、**ESG関連**（88%）が第1位、**自主的情報開示**が第3位（76%）、**説明会等**が同得点第3位（78%）となった。昨年度に比べ、**フェア・ディスクロージャー**を除く4分野において、得点率が下がった。

② **経営陣のIR姿勢等**においては、「**経営陣のIR姿勢**」および「**社外取締役との対話**」が共に最も高い評価となり、また、「**IR部門の機能**」（第3位）についても評価された結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、経営陣が事業説明会やスモールミーティングで意見を収集するなど**IR**を積極的に活用し、**ESG**課題などを経営に取り入れる姿勢があるとの声が寄せられた。また、社外取締役が投資家との対話に積極的に関与していることを評価する声もあった。**IR**部門については、数量や単価に関する情報も把握し適切に説明できるとの声があった。なお、リスクに関する十分な説明を求める声があった。

③ **説明会等**においては、「**インタビューにおける開示**」が同得点第3位となった。「**説明会、説明資料等における開示**」（同得点第4位）は、昨年度に比べ、得点率が大きく下がった。これらに関連して、会社が伝えたい情報だけでなく、足元の環境変化などについても十分な説明を求める声のほか、ヘルスケアなどの非食品事業に関する情報について一層の提供を望む声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「**リモートツールによる情報提供**」が最も高い評価となり、「**フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢**」も、同得点第1位（昨年度同得点第5位）となった。いずれの項目も90%以上の得点率となり、この分野において第1位となった。これらに関連して、決算説明会の開示内容や、

英語対応などが優れているとの声があった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、その進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していること」および「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」が共に最も高い評価となった。また、「非財務情報（ESG 情報や Scope3 を含めた気候変動問題等）に関して、中長期的な改善目標など定性・定量両面での開示、及び統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」も同得点第 1 位となり、この分野において、昨年度に続き第 1 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」（第 2 位）が評価された。なお、「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」は同得点第 6 位となり、昨年度に比べ、得点率が下がった。充実していた見学会等として、川崎 CIC、タイ事業の戦略説明会を挙げる声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 アサヒグループホールディングス（総合評価点 83.3 点〔昨年度比－7.8 点〕、昨年度第 1 位）

- ① 同社は、説明会等（83%）、自主的情報開示（86%）が第 1 位、経営陣の IR 姿勢等が第 2 位（82%）、ESG 関連が第 3 位（83%）、フェア・ディスクロージャーが第 4 位（88%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて、得点率が下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が同得点第 1 位となった。これに関連して、IR 部門とは、中長期的な視点でも有益な議論ができるとの声や、数量や単価に関する情報も把握し適切に説明しているとの声があった。また、「経営陣の IR 姿勢」および「社外取締役との対話」が共に第 2 位となった。これらに関連して、経営トップがスモールミーティングや個別面談などで意見を収集するなど IR を積極的に活用し、ESG 課題などを経営に取り入れる姿勢があるとの声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「インタビューにおける開示」が最も高い評価となった。また、「説明会、説明資料等における開示」も同得点第 1 位となった。これらの結果、この分野において昨年度に続き第 1 位となった。なお、説明会資料において、利益増減要因などの開示がやや後退しているとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（第 4 位）が 90%以上の得点率となった。また、「リモートツールによる情報提供」（同得点第 4 位）も 85%以上の得点率となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」が第 2 位となった。「非財務情報（ESG 情報や Scope3 を含めた気候変動問題等）に関して、中長期的な改善目標など定性・定量両面での開示、及び統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」および「人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、その進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していること」は共に第 3 位となった。これらに関連して、事業活動とサステナビリティの取組みなどのリンクがよくわかるとの声が寄せられた。また、スマドリ（スマートドリンク）に関する開示の充実を期待する声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、2 項目が共に最も高い評価となり、この分野において昨年度に続き第 1 位となった。有益なイベントとして、Investor Day のほか、欧州やオセアニアに関する事業戦略説明会を挙げる声が多かった。

第 3 位 キリンホールディングス（総合評価点 78.3 点〔昨年度比－7.6 点〕、昨年度第 3 位）

- ① 同社は、ESG 関連が第 2 位（85%）、フェア・ディスクロージャーが第 3 位（90%）、説明会等が同得点第 3 位（78%）、経営陣の IR 姿勢等が同得点第 4 位（73%）、自主的情報開示が第 8 位（64%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて、得点率が下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「社外取締役との対話」（同得点第 3 位）が、昨年度に比べ、得点率を大幅に下げた。「IR 部門の機能」は同得点第 4 位となった。これに関連して、IR 担当者と有益な議論ができるとの声

があった。「経営陣の IR 姿勢」については第 6 位（昨年度第 3 位）となった。これに関連して、経営トップがスモールミーティングや個別面談を行うなど IR を積極的に活用し、ESG 課題などを経営に取り入れる姿勢があるとの声が寄せられた一方、経営の優先順位が投資家の期待と異なっている可能性があるとの声があった。また、ヘルスサイエンスにおいて、結果だけでなくプロセスや将来像を十分に説明することを望む声もあった。

- ③ **説明会等**においては、「インタビューにおける開示」が同得点第 3 位となった。また、「説明会、説明資料等における開示」が同得点第 4 位となった。これらに関連して、中期経営計画に対する通期実績の進捗状況など全体感が把握できるような説明を望む声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 1 位）が、90%以上の得点率となった。また、「リモートツールによる情報提供」（第 3 位）も 85%以上の得点率となった。これらに関連して、決算説明会の開示内容が優れているとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「非財務情報（ESG 情報や Scope3 を含めた気候変動問題等）に関して、中長期的な改善目標など定性・定量両面での開示、及び統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」が同得点第 1 位となった。また、「人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、その進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していること」が第 2 位となり、90%以上の得点率であった。「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」は第 3 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」（第 7 位）および「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」（同得点第 9 位）が共に、昨年度に比べ、得点率を大きく下げた。なお、ヘルスサイエンスデイ、CSV Day は有益なイベントとの声があったが、全般的に分析の役に立つイベントが少なかったとの声もあった。

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表（食品）

（単位：点）

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
	評価対象企業												
1	2802 味の素	85.0	29.5	1	14.0	3	7.4	1	28.0	1	6.1	3	2
2	2502 アサヒグループホールディングス	83.3	28.0	2	15.0	1	7.0	4	26.4	3	6.9	1	1
3	2503 キリンホールディングス	78.3	24.8	4	14.0	3	7.2	3	27.2	2	5.1	8	3
4	2897 日清食品ホールディングス	76.3	24.6	6	14.4	2	6.6	6	24.9	4	5.8	5	5
5	2264 森永乳業	74.4	25.8	3	14.0	3	6.5	9	22.9	7	5.2	7	9
6	2282 日本ハム	74.1	24.8	4	13.5	8	6.6	6	23.2	6	6.0	4	11
7	1332 ニッスイ	71.4	23.0	8	13.7	7	6.3	12	22.1	10	6.3	2	
8	2607 不二製油グループ本社	71.2	24.5	7	13.0	10	6.6	6	22.1	10	5.0	9	4
9	2871 ニチレイ	69.7	22.8	9	13.2	9	6.2	13	22.6	8	4.9	10	8
10	2269 明治ホールディングス	69.3	22.1	10	12.3	13	6.8	5	23.9	5	4.2	13	6
11	2914 日本たばこ産業	68.2	20.6	13	13.9	6	7.3	2	22.3	9	4.1	14	7
12	2229 カルビー	67.6	21.3	11	12.8	11	6.5	9	21.5	12	5.5	6	9
13	2809 キユーピー	62.7	21.2	12	12.7	12	6.0	14	19.7	13	3.1	16	16
14	2002 日清製粉グループ本社	59.3	19.4	14	11.4	18	5.9	15	17.8	17	4.8	11	12
15	2267 ヤクルト本社	58.7	18.6	16	11.7	15	5.9	15	18.2	16	4.3	12	17
15	2801 キッコーマン	58.7	18.4	17	11.3	19	5.8	18	19.2	15	4.0	15	14
17	2579 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス	57.9	17.7	18	11.6	16	6.5	9	19.4	14	2.7	17	18
18	2587 サントリー食品インターナショナル	57.0	19.0	15	12.1	14	5.9	15	17.3	18	2.7	17	13
19	2875 東洋水産	49.3	16.1	20	11.6	16	5.7	19	13.3	19	2.6	19	19
20	2212 山崎製パン	47.0	17.3	19	10.9	20	4.5	21	12.5	21	1.8	21	21
21	2206 江崎グリコ	41.6	13.4	21	8.0	21	5.0	20	13.2	20	2.0	20	20
	評価対象企業評価平均点	65.76	21.57		12.62		6.30		20.84		4.43		

2024年度評価項目および配点 (食品)

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (34点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動に注力していますか。経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。また、経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	20
(2)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	4
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (18点)	配点
(1)説明会、説明資料等における開示	
・説明会等において、会社側に説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。また、説明会資料等において、決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)インタビューにおける開示	
・インタビューにおける会社側とのディスカッションは十分に満足できるものですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
3. フェア・ディスクロージャー (8点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。また、日英両言語でタイムリーに提供していますか。	4
(2)リモートツールによる情報提供	
・新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか。	4
4. ESGに関連する情報の開示 (32点)	配点
①非財務情報（ESG情報やScope3を含めた気候変動問題等）に関して、中長期的な改善目標など定性・定量両面での開示、及び統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るよう努めていますか。	12
②人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、その進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していますか。	8
③中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていますか。	12
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (8点)	配点
①携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していますか。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等。	4
②有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していますか。【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	4

食品専門部会委員

部会長	守田 誠	大和証券
部会長代理	角山 智信	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	鎌田 聡	大和アセットマネジメント
	マイケル ジェイコブス	ティー・ロウ・プライス・ジャパン
	高木 直実	SMBC 日興証券
	藤原 悟史	野村証券
	二見 哲史	アセットマネジメント One

評価実施アナリスト（20名）

伊原 嶺	UBS 証券	高木 直実	SMBC 日興証券
奥下 諒	三井住友トラスト・アセットマネジメント	角山 智信	モルガン・スタンレー MUFG 証券
鎌田 聡	大和アセットマネジメント	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
高 英詞	野村アセットマネジメント	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
小杉 大介	東京海上アセットマネジメント	仁井田 将	りそなアセットマネジメント
佐治 広	みずほ証券	福井 悠香	第一生命保険
マイケル ジェイコブス	ティー・ロウ・プライス・ジャパン	二見 哲史	アセットマネジメント One
篠崎 智明	QUICK	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
下川 寿幸	立花証券	守田 誠	大和証券
住母家 学	岡三証券	李 想	野村アセットマネジメント

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。